

鶏糞重量20%減で、糞の質も大きく変わる ～鶏糞低減飼料が東北6県で商品化～



養鶏経営において、鶏糞処理は最大の課題の1つである。毎日発生する鶏糞を処理するには大きな手間とコストがかかるため、鶏糞が減れば大きなメリットになる。今回は、東北6県を営業拠点として配合飼料の製造供給を行うJA全農北日本くみあい飼料株式会社が、鶏糞が減る飼料を商品化した事例を紹介する。

●鶏糞低減の仕組み

同社の鶏糞低減飼料は採卵成鶏向けで、JA全農の飼料畜産中央研究所が開発した独自のノウハウを基に以下のようなポイントを重視して設計されている。

まずは、なるべく消化吸収しやすい飼料にする事が挙げられる。鶏が食べた飼料は腸内で徐々に消化吸収され、消化できなかった残りが糞として排せつされる。そのため、消化できない部分が少ない飼料に仕上げる事で、鶏糞の量を低減する事ができる。

もう1つは原料の吸収効率を高めるため、消化酵素を配合している事だ。飼料に加えた酵素が鶏の腸内で消化されにくい成分を分解するので更に糞が減る。

この飼料ではミネラル含量・バランスを調整しているため、飲水量を少なくする事で糞の水分も減らしている。これらの相乗効果が鶏糞低減飼料の重要なポイントとなる。

●試験データのご紹介

東北地区のある農場で鶏糞低減飼料を給与し、1カ月間毎日の鶏糞の重量を手作業で測定したところ、従来飼料の鶏群と比較して鶏糞の重量が約20%減少する効果が得られた(図1)。

また農場主からは「鶏糞低減飼料に切り替えてすぐに飲水量が減少し、糞の量、質ともに明らかに変わった」というご意見をいただいている(図2)。

一方で飼料摂取量や産卵率、

図1. 鶏糞重量の推移



図2. 飲水量・飼料摂取量の推移

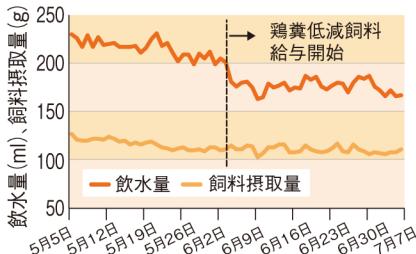
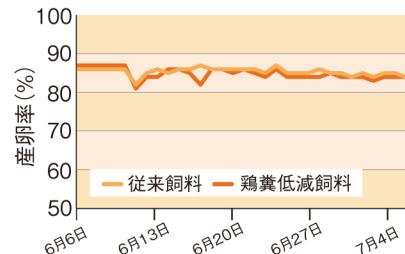


図3. 産卵率の推移



●鶏糞低減飼料に関するご相談は・・・JA全農北日本くみあい飼料(株)営業部(TEL:022-792-8043)または同社営業担当者まで

卵質など生産成績は変わらないため、特別に意識する事なくいつもの飼料と同じように使えるという評価も受けた(図3)。

試験供給中のいずれの皆さまからも、糞量・糞質の変化に対する驚きの声をいただいている。飲水量の減少により、糞中水分が減って集糞作業がしやすいという声のほか、鶏糞トラックの燃費が良くなったり、発酵コンポの稼働時間が短縮できたとの声もあり、従来飼料を全て本製品に置き換えた農場もある。

鶏糞処理コストは鶏卵kgあたり10円前後ともいわれ、鶏糞処理が行き詰まると養鶏事業そのものも行き詰まってしまう。鶏糞の減量はコストをかけてでも取り組みたいテーマである。

同社は今後、東北地域の多くの生産者に効果を実感していただくため、くみあいUNKシリーズ※の名称で製品ラインアップの充実を図る方針だ(図4)。

図4. 鶏糞低減飼料のパンフレット



※UNK: Useful,Nature-Kind
(便利で自然に優しい)